

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

溪流の運ぶ涼風満身に

池田 安起徒

白南風や古りし地蔵の笑みかすか

泊 康

滝涼し一日の旅の終わりとし

宮路 生大子

大陽俳句会

無造作に一気に咲けり白木槿

岩重 みどり

雷鳴の描いて見せる曲線美

逆瀬川 節子

泳ぎ子の高き橋より宙を舞ふ

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

一人欠け二人欠けて十三人

竹馬の友は老いて集へり

宝蔵 弘二

小判草揺るる玄関に屋根塗装

説きいる男は細き指持つ

森岡 ちどり

暗緑の森に点描の合歓の花

午睡のほとりにわれを誘ふ

長倉 佳津子

大陽短歌会

カラオケはいつでも「パイナップルプリンセス」

のっぽの彼はもういないけど

広川 ミドリ

旧姓の名前うすれし算盤が

八十路のくらしにパチパチと鳴る

竹内 娃子

劳らいの言葉互みに交わしつつ

お茶会はずむ体操教室

安藤 フヂ子

財部短歌会

菜園でホーホケキョの声聞くけれど

姿を見せぬ夏のウグヒス

児玉 次雄

指先に願ひをこめて折紙す

鶴に奴に七夕飾り

杉村 リカ

団地内バイバイの声す三時半

背中の鞆がカタカタと鳴り

井上 澄子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

技手どんの 呆やし田んぼ

古川 一幹

物笑じや

呆えこつじや 財布を納たや

場所忘れ 胡摩ヶ野 べぶまつ

呆えならん 薬ゆ買ったどん

飲ん忘れ 桐野 奈世

呆えん忘れ

婆婆ん連 井戸端会話

呆け防止

浜田 一好